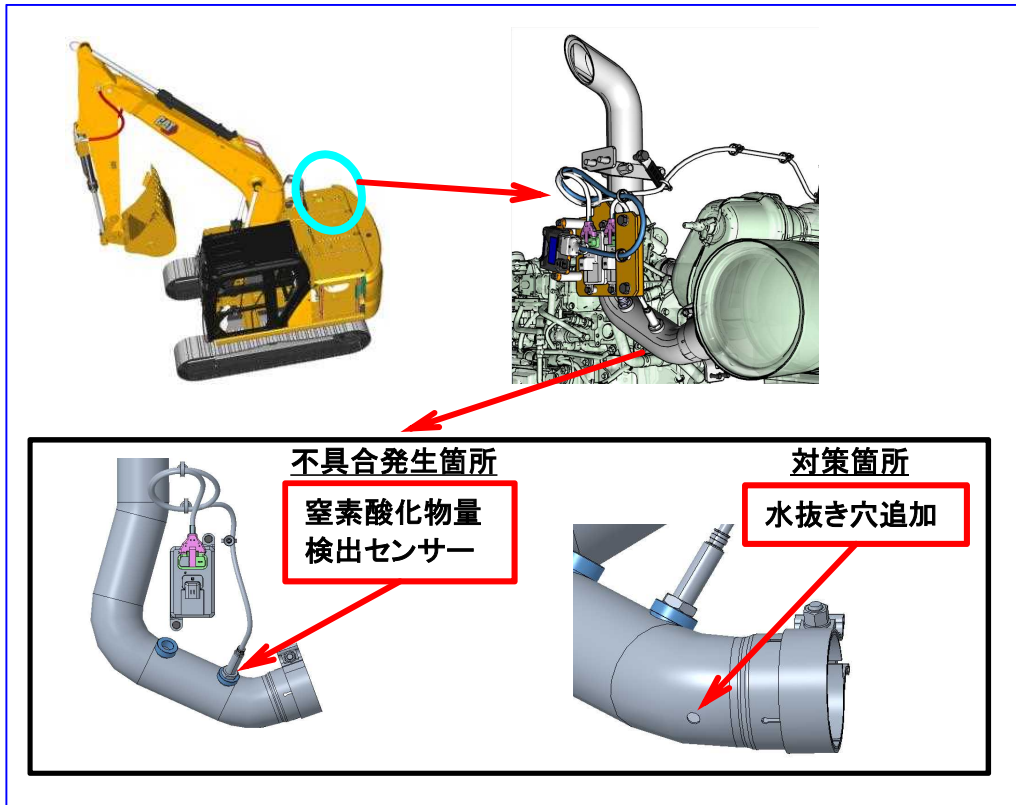


－ 改善箇所説明図 －

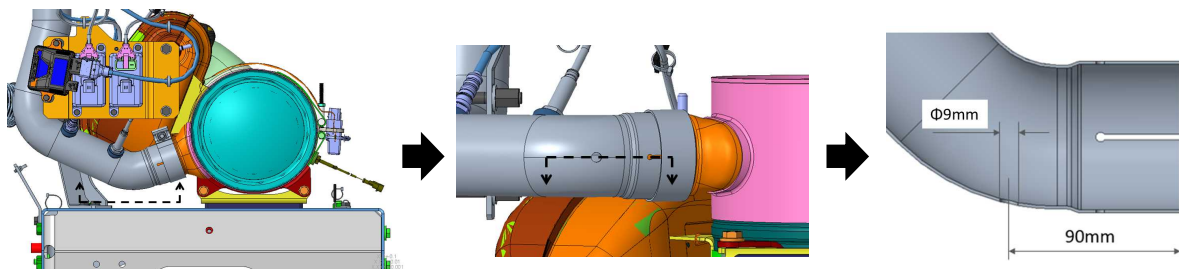


不具合発生箇所

当該特定特殊自動車の尿素SCRシステムにて、排気ガスに含まれる窒素氧化物(NOx)の排出量を検出するセンサーが機能しなくなるおそれがある。当該車両に搭載された排気ガスパイプの構造により、排気ガスパイプ下部に雨水が溜まり、溜まった雨水がエンジン稼働によって飛散する。それにより窒素氧化物量検出センサーの検知部に汚れが付着し、窒素氧化物量の誤検知が発生する。誤検知が運転室のモニターに表示され、この状態で使用し続けようとするとうる素SCRシステムの「使用制限」が機能する。
 なお、本不具合は当型式車両対象の排気ガスパイプを搭載する当型式車両のみで発生するものであり、他の車両で同様の不具合が発生するおそれはない。

改善措置の内容

窒素氧化物量検出センサーを搭載する排気ガスパイプの下部に水抜き穴を追加し、雨水が溜まることでセンサー検知部に汚れが付着することを防止する。



改善実施済車の識別

排気ガスパイプ下側にある水抜き穴で識別する。

